

がいらいしゅ  
**外来種**ってなんだろう？

外来種とは、もともとその土地にいなかったのに、人間の活動が原因で、ほかの土地から入ってきた生き物のことをいいます。特に人間の移動や物流がさかんになりはじめた明治時代以降に、外国から持ち込まれた生き物のことを指します。なお、渡り鳥や海流によって移動してくる魚や植物の種などは、自然の力で移動するものなので、外来種とはいいません。外来種の中で、地域の自然環境に大きな影響を与え、生物多様性を脅かすおそれのあるものを、特に侵略的外来種といいます。具体的な例としては、沖縄本島や奄美大島に持ち込まれたマングース、小笠原諸島に入ってきたグリーンアノールなどがあげられます。外来種と呼ばれている生き物は、悪意を持った生き物ではありません。彼らが引き起こす問題は人間が勝手に持ち込んだことで起こるのです。それまでの生きものたちのバランスをこわしてしまうのは、人間の活動が原因なのです。

外来種による問題

- ①捕食：もともと生息していた動物や植物を食べてしまう。(ブラックバス、マングースなど)
- ②競合：在来の生き物から、食物や生息環境を奪い、駆逐する。(ホテイアオイ、オオタナゴなど)
- ③交雑：雑種が生まれてしまう＝遺伝子の汚染。(台湾ザル、タイリクバラタナゴなど)
- ④感染：それまで無かった、病気や寄生性が発生。(オオブタクサ、カ、ネズミ類)

既存の生態系に大きな影響をおよぼす、特定外来生物（外来種）



オオクチバス (ブラックバス)



カミツキガメ



マングース



ヒアリ (ファイヤーアント)



ポタンウキクサ



ニューギニアヤリガタリクウズムシ